

明海大学 不動産学部

不動産の不思議

学生たちの視点と発見

第110回

【学生の目】

何の変哲もない写真のアパートの前を通りかかって違和感を持ったので、理由を考えた。

第一の理由は、ベランダもつけない、経済的な造りになっていることだ。その代わりにつけられた出窓が連続する外観が個性的なことが第二の理由だ。第三の理由は、空調の室外機が連続して設置されていることだ。ベランダがないために2階の室外機も敷地に直接置くことになった結果だ。いずれもアパートのシンボルであるベランダ(富山大貴



田向 雄一
不動産学部3年

空調室外機の置き方

「不動産の不思議第15回」14年1月7日号)を排除したことに共通点がある。意図的にベランダをつけなかったのか、それとも、敷地の形状がそれを許さないなど、他の理由があったのだろうか。更に考えた。それは、ベランダをカットするほどの「安いつくり」で、違和感を持たせるほど個性のなのに、なぜかすっきりした清々しさもあるからだ。

違和感を持たせるデザイン

「不動産の不思議第15回」14年1月7日号)を排除したことに共通点がある。意図的にベランダをつけなかったのか、それとも、敷地の形状がそれを許さないなど、他の理由があったのだろうか。更に考えた。それは、ベランダをカットするほどの「安いつくり」で、違和感を持たせるほど個性のなのに、なぜかすっきりした清々しさもあるからだ。

すっきり感の理由は、室内機と室外機をつなぐ冷媒管がないことだ。このような建物では冷媒管が建物の外部にとりつけられて、外観を見苦しくする(山崎映里「不動産の不思議第96回」15年8月18日号)。パイプスペースを設けて冷媒管を隠ぺいしていることに驚くとともに、新しいトレンドになる予感がした。

一方で、室外機の列は、折角の配



なぜか清々しさを覚える外観デザイン

一方、実質以上の経年を感じさせず、折角の配慮が台無し

「教員のコメント」
配慮が届いた建築物では設備は建築と一体化して建築空間の一部となる。一方、耐用年数の違いより設備の更新に配慮が必要で、両者分離に便宜がある。賃貸アパートでは後者が主流だったところ、入居者の感性をキャッチする経営力が試される。

である。排水路も整備したい。快適に過ごすために空調は必需品だが、機械的で乱雑な感じを与えない室外機、冷媒管、排水路の設置が大切だ。